

この世は娑婆 だから面白い

人生は苦しいのが当たり前。
苦も楽も次々におしよせてくる。
しかし、たじろぐことはない。

住職を務める長寿院が「自殺志願者駆け込み寺」と報道されて十二年が経つ。

運命は変える ことができる

中学生から八十代のお年寄りまで一万人以上の人々と対話を続けて来た。とりわけ二十代三十代が

多い。

Iさん三十七歳。夢の会社設立を果たしたものの、三年で倒産。経済的困窮から家庭崩壊、離婚……。もう限界だと訴え、私に激しい言葉を投げつける。

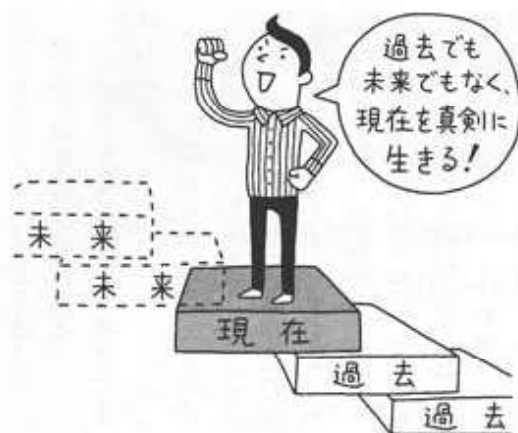
「なぜおれの運命はこんなにならない・不幸なんですか？ どうして同じ人間の運命がこんなにも違うんですか？ 住職、なぜですか？」涙さえ浮かべている彼に、私は

こう答えた。

「君は運が悪かったと言うけれど、決められた運命なんてない。私たち人間にもし運命というものがあるなら、自分で運命を作り育てていくんだよ。誰もが自分の人生に、様々な幸福が実るための種をまき、育て、収穫する。それが運命だ。もう一度言うよ。運命は決まってない。運命なんてどうにも変えることができるのさ！」



しのはらえいいち
篠原鋭一
(曹洞宗長寿院住職)



「運命って決まってるんでないんですか！ 変えられるのですか……」
彼の瞳が輝いた。

今が未来を作る

ある日三人の大学生がやってきて訴えた。

「オレたちに未来なんてないんですよ！」

「未来がなければ生きていく意味がわからねえ！」

彼らの話が終わるのを待つて告げた。

「仏教は、過去・未来・現在、ということをしつかり認識して生きていることが大切だと教えているんだよ」

すぐさま一人の学生が問いかけてきた。

「順番が違いますか？ 今、過去・未来・現在っていいましたよね。正しくは過去・現在・未来じゃないんですか？」

「一般的にはそういう。けれど仏教の教えでは、過去・未来・現在。だ。過去はもう終わったことだ。未来は未だ来ていない。確かに予定を立てること、予測することはできるだろうが、当てにはならない。

大切なのは過去でもなく未来でもない。現在。こそが実体であり真実なのだ。つまり今をしつかり生きるといふことだ。コマースで流行した。いまでしょ、あれは正解！ 今は過去の今を積み上げてやって来た。そして今を積み上げて行くと未来になる。

言いかえれば今日はまっさらな今日で、今日が本番、今が本番、この一瞬こそが本番なんだよ。現在、今を真剣に生きる！ それが未来を作るんだ」

三人は深くうなずいていた。

人生に自分の代わりはいない

K君が大学を中退することになったと涙を浮かべて語り始めた。

「父親の会社が倒産したんです。大学中退の学歴では人生、もう駄目です。消えます」

近ごろの若者は、死にたい。と言わず、消えたい。と告げる。

荒っぽいと思われるかも知れないが、K君には次のような提案をしてみた。

「ああそう。つまり死にたいの。いいよ私と一緒に。死に方。考えよう。この紙に死ぬための戦略・戦術を書いてみよう。自死の設計図。では君はいつ・どこで、どんな方法で死ぬのか思うままに

プロフィール

1944年生まれ。曹洞宗総合研究センター講師、NPO法人「自殺防止ネットワーク風」理事長。“生きること”“命とは”をテーマに講演多数。著書に「この国で自死と向き合う」(ヒトリシヤ)、「どんなときでも、出口はあるよ」(WAVE出版)などがある。

話してみてもよ。ハイどうぞ！」

K君が顔をあげて答える。

「まだそんなことまで考えてませんよ！」

「じゃあ、お互いに意見を出そう。先ずいつにしようか？ 今月、来月、来年？ 場所は福井県の東尋坊はどうだろうか？ まてよ、あそこはダメだ。自殺ゲートキーパーの茂幸雄さんがいるから止められる。和歌山県南紀白浜の三段壁。あそこなら……いやダメだ。藤敷庸一さんというやさしい牧師さんに絶対止められる。困った。君も案を出せ！」

K君が告げた。

「住職さん、自殺を止める人が自死の設計図とはひどいじゃないですか？ なんだか死ぬのがバカらしくなりましたよ。オレもう死にません！ オレ本当は生きていきたいんです」

「そうか。よかった……。K君、命はひとつ、人生は二度とない。自分の代わりはいないんだよ。小便したいから、大便したいから、といって他人に代わってもらえる

か？ 無理だろう。

いいか、君の人生を代わりに生きてくれる人は、誰もいない。だから、自分がどう生きるべきか決めるのは自分しかないんだよ。わが人生の主人公は自分なんだよ」
後日、K君は夜働いて学費を稼ぎ、大学を続けると伝えてきた。

生きるのが苦しいのは当たり前

「娑婆」は仏教語である。古代インドのサンスクリット語「sāha」(サーハー)を音写した語で「忍耐」を意味する。平たく言えば「私たちが生まれたこの世は汚辱と苦しみで満ちた世界である」ということ。

そう、私たちはこの世に生まれた瞬間から苦しみの世界に生きていくのだ。だから苦しいのは当然のこと。実は苦しみに満ちた娑婆だから面白いのである。

苦も楽も次々におしよせてくる。面白いではないか。何もなか

つたらつまらない。

難問が襲ってきてもたじろぐことはない。

次の一文を味わってみよう。

たじろぐことはない

生命あるものは必ず滅びる(生者必滅)

会えば必ず離れるときがくる(会者定離)

すべてのものはみな移りかわる

(諸行無常)

悩んでも 迷っても

苦しんでも 不安でも

落ちこんでも 死のうと思っても

それは 一時のこと

そんな思いも すべて変化して

いつて

やがて 勇気や希望が あなた

を包む

幸福も不幸も

プラスもマイナスも わが人生

たじろぐことはない

「この世は娑婆。だから面白い！」

「不幸は幸福の糧。不幸に感謝」

こんなふうには肝っ玉を据えてしまえば毎日がウキウキ、キラキラ

してくると私は信じて生きている。